

第 107 回中央教育審議会総会（H28. 5. 30）議題に関する意見

横浜市長 林 文子

議題（2）第 3 期教育振興基本計画の策定について

1 教職員が子どもとしっかり向き合える環境の整備

子どもたち一人ひとりが幸せに生きるとともに、社会で自らの役割と責任を果たし、生き生きと活躍できるようにしていくことは、どのような時代にあっても、教育の基本です。これからの時代、人工知能が飛躍的に普及しても、時代の課題を捉え、解決の道筋をつけていくのは人であり、人を育てる教育はますます重要になります。

その教育の重責を担うのは学校現場の教職員であり、教職員が心身ともに元気で、子どもとしっかり向き合えるようにしていくことが何より重要です。このことから、「教職員が子どもとしっかり向き合える環境の整備」を、今後の教育の目指すべき姿の基本に据えていただきたいと考えています。

2 子どもたちの「本物」体験の充実、身に付けてほしい力

現在、子どもたちはスマートフォンやパソコンなどにより、友だちや社会とつながることが当たり前になっています。しかし、インターネット上で子どもたちが見ている世界は、実際に人と人が向き合ってコミュニケーションをとり、様々な気持ちのやりとりをしながら生きている実社会と異なります。情報通信技術の一層の進展が見込まれる中、現実の世界の美しさや人と人がじかに触れ合うことの大切さ、情緒豊かな世界を体験する機会をいかに作るかが重要です。子どもたちが、実社会と関わり、多様な「本物」を体験することがとても大切だと考えます。

① 人を思いやる優しさと豊かな感性

子どもたちの健やかな成長のためには、まず豊かな心を育むことが不可欠です。

横浜市では、音楽・美術・演劇・ダンス・伝統芸能など、幅広い分野で活躍している芸術家を学校に派遣する「芸術文化教育プログラム推進事業」を実施しています。200 名近い「本物」のアーティストが毎年 130 余りの学校を訪問し、様々な演奏やパフォーマンスを行ったり、子どもたちに様々なジャンルの創造活動を体験させたりしています。そのことが子どもたちの心を揺さぶり、授業を受けた子どもたちの約 9 割が「また授業を受けたい」と回答しています。

「本物」の文化芸術やスポーツを題材とした交流体験を通じ、子どもたちに、人とのつながりを大切にし、他人の考えや多様な価値観を尊重できる心や、相手の立場や気持ちを

思いやって行動できる、優しさと豊かな感性を身に付けられるような教育を行っていくことが必要だと考えています。

② 世界で活躍できるためのグローバルな視点

今後は、グローバル化の一層の進展に伴い、日本で暮らす外国人等の数が増加することが予測されています。また、今回の「参考データ集」にもあるとおり、企業の海外売上高比率や生産比率の増加、輸出入の規模の増大、貿易相手の多様化など、日本人が外国人とやり取りする機会は一層増えることが予想されます。

そのような社会においては、子どもたちに、多様性を認める柔軟さを持ちつつ、世界の人々と積極的にコミュニケーションを取り、協働・共生する姿勢を養うことが大変重要になります。

例えば、外務省や観光庁等との連携も図りながら、日本を訪れる外国の方々やグローバルに活躍する人材と交流する機会を設けることで、国際社会の動向や、世界で活躍する人の姿について学ぶことは、将来、世界へ羽ばたいていく子どもたちに必要な教育なのではないでしょうか。

国際社会の中で、バランス感覚を持ちつつ自ら挑戦する気概をもつこと、日本の歴史、伝統文化に対する理解を深め、様々な国の人々と理解し合い協働できる姿勢を育むような教育を行っていくことが望まれると考えます。

③ 自立して生きていく力

今後、人工知能をはじめとする技術革新やグローバル化の一層の進展などにより、社会は劇的に変化することが予測されています。「参考データ集」には「人工知能やロボット等による代替可能性が高い100種の職業」と、「代替可能性が低い100種の職業」が示されています。

このような時代を生きていく子どもたちには、今以上に生き方、働き方についてしっかりとした考えを持つことが求められるようになると思います。「生きていく」とはどのようなことなのかをリアルに経験し、子どもたち自身が考えるきっかけを提供することは大変重要です。

そのため、例えば、地域の企業や商店街との連携も図りながら職場体験活動を推進し、子どもたちが実社会で働くことを疑似体験することは有意義なことと思います。また、実社会で生じている課題を題材とした授業や、社会人が講師となって自らの職業について語るなど、「本物」に触れるキャリア教育を推進していくべきだと思います。

こうした教育を通じ、子どもたちが夢や希望、目標を持ち、それに向けて努力し学び続けることや、自分自身が社会で何ができるかを考え、互いに助け合いながら困難の解決に向けて行動できる力を育むことが必要だと考えています。